



大 地

令和8年9月号

校長 指崎 邦久

このたびの豪雨により、各地で大きな影響がありました。浸水による被害を受けられた方、避難を余儀なくされた方もいらっしゃると思います。心よりお見舞い申し上げます。また、救助・復旧活動に携わられた方々や、互いに支え合っておられる皆様に、深く敬意を表します。一日も早く、穏やかな日々を取り戻されることを願っております。

さて、学校の校舎等には目立った被害はなく、無事に子供たちを迎え入れることができました。子供たちは元気に登校し、友達と笑顔で話したり、宿題等を提出したり、先生に夏休みの思い出を話したりしていました。一方で、豪雨の被害を受けた子供や、学校生活に不安を感じている子供もいるのではないかと心配しています。子供たちの心の揺れに気を配りながら、2学期の始まりを見守っていきます。

2学期は、学習発表会をはじめ、様々な場面で多様な人と接する機会を設けたいと考えています。そして、様々な目標を学級や学年等で子供たちと共に設定し、達成できたことを実感しながら一緒に笑えるように、助け合い、高め合っていけるようにしたいと思います。

2学期もご家庭の温かいご理解とご協力をいただきますようお願いいたします。



学期の初めに際して

夏季休業中の終盤に、子供たちを迎えるために子供の心理と2学期の指導について話し合いをしました。そこでの内容の概略を紹介します。

夏休み明けの子供の心理

○久しぶりの環境の中、失敗することや人間関係への不安がある

不安から心の安定を求め

- ・少人数グループを形成する
- ・安易な内容で同調する
- ・自分たちより低い立場の存在をつくらうとする

教職員の指導の構え

- 見通しを子供と共有する
- 子供の活躍の場を設定する
- 適切な関わりができるように見守り声をかける

できたことを自覚し自信をもてるようにする

- 意欲を高める
- ・活動内容や手順を分かりやすく示す
 - ・頑張ればできる目標を設定する
 - ・できたことを自覚する場を設ける
 - ・ほかほか言葉で安心感を高める

指導の合言葉「軽く・短く」

活動は達成できる負荷の軽いものを中心に

指示は短く、具体的に

9月の生活目標

ほかほか言葉をたくさん使おう

以上のことを意識して、9月は、ほかほか言葉（例「お願いします」「ありがとう」）をたくさん使えるように、指導していきます。ご理解いただき、ご家庭でも声をかけていただけるとありがたいです。

昔から伝わる言葉の力

言葉には、不思議な力があると言われていました。「言霊」という表現で語られることもあります。

「ありがとう」や「大好き」といった言葉には人を元気にする力があり、「面倒くさい」「うっとうしい」といった言葉には、人の心を沈ませてしまう力があると言われています。温かい言葉を口にすると、周りの人も自分自身も、前向きな気持ちになりやすいそうです。プロテニス選手の錦織圭選手は、試合中に「I can do it」と何度も小声でつぶやいていたそうです。その結果、全米オープンで準優勝という大きな成果を収めました。

また、自分が発した言葉を一番近くで聞いているのは、自分自身です。人に向けた言葉であっても、その言葉は自分の耳に入り、心にも残ります。嫌な言葉を使えば自分の心にも響き、よい言葉を使えば自分の心も励まされるのではないのでしょうか。

人を温かくする「ほかほか言葉」をたくさん使っていきたいものです。人のためにも、自分のためにも、子供たちには温かい言葉を大切にしてほしいと思います。

これであっているのか

夏季休業中に読み返した雑誌の中に心に残る文章があったので紹介します。第22回おやじ日本全国大会での議論の様子を報じたものです。

睡眠とメンタルヘルスの関係について、東京都医学総合研究所__山崎研究員は次のように語っています。

世界的に過去 15 年間の間に、思春期(10~24 歳)のうつ病と自殺が関連する問題が増加している。電子デバイスの利用時間が伸び睡眠時間が減少して、メンタルヘルスが悪化した。

睡眠は、心の安定にとっても必要不可欠なものであると実感しました。

また、竹原おやじ日本理事長は子育てに関する不安について次のように語りました。

「わたしの子育て、これであっているのか、、、」保護者はこんな思いを抱きやすい。一人一人の個性を尊重する社会に進む一方で、「正解」への固執も強まっている。

子育てについて誰もが不安になることがあると思います。わたしも手探りで子供を育ててきた不安感がよみがえりました。お互いを信頼し、同じ目標に向かって考えを言い合える関係が、こういう不安を軽くしてくれると思います。子供たちの中にも、そのような信頼関係が広がるように指導していきたいと考えています。また、学校とご家庭もそのような関係となるように努めていきたいと思っています。

人の支え 避難訓練に際して

9月2日(水)に、地震・津波に備えて避難訓練を行いました。机の下に入って地震の揺れに耐え、津波に備えて3階へ素早く避難しました。熊本では、10年前に大きな地震が起こった近くで再び大きな地震が起こりました。線状降水帯による被害は、氷見だけでなく、様々なところで聞かれるようになりました。いざというときのための備えの必要性を強く感じています。



避難訓練に際して、わたしたちはたくさんの人に支えてもらっていると話しました。また、友達をよく見て、気持ち等を考えて、人が困っているときには助けられるようになってもらいたいとも話しました。

人の気持ちの変化に気付き、いざというとき人を支えられるようになってもらいたいと思います。

ありがとうございます・お願いします

4月に氷見市教育委員会からの「教員の働き方改革を進めます」を配付しましたところ、ご家庭のご理解をいただき、午後6時以降の学校への折り返しの電話を除き、ほとんど無くなりました。ありがとうございます。朝は、午前7時45分から電話を受け付けております。それ以外の至急の場合は、下の緊急連絡先の番号に連絡をいただき、要件、学校名、児童名、電話番号をお伝えいただきますようお願いいたします。

また、tetoruで重要な連絡を送付することがあります。確認いただきますようお願いいたします。

【緊急連絡先】0766-74-8100